

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本方針に取り入れ理念のひとつとして掲げている	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に管理者、職員共に理念の実践に向け意識を高め取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族にはプランに盛り込む等して地域での生活の大切さを伝えるようにしている。地域には運営推進委員会の地域代表の方や地域住民に通信の回覧を通して理解いただけるよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地条件で厳しい点があるが日常の中で立ち話や通信で関係作りのきっかけにと努めている。	○ 近日中に『かたくり茶房』に近隣の方々を招待し、それをきっかけにもっと日常的にも気軽に立ち寄っていただけるように計画中。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域内の小学校、幼稚園の行事見学。地域開催の運動会、文化祭等なるべく機会を作り参加するよう努めている。また併設施設合同の行事(開設記念祭・納涼祭)にも地域の方々を招待し年々参加が増えている。	○ 運営会議を通じて地域自治体に働きかけている。

城西医療財団かたくりの郷・らいちょうユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>管理者は併設する施設と合わせ地域でシンポジウム『地域で支える介護の大切さ』を開催した。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員全員で意義を理解し自己評価に取り組み、評価結果について具体的に検討し実践に繋げるようにしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>状況報告をし話し合い、出された意見をサービス向上に活かせるよう努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者に入居状況、入居待機者状況を伝えて協力を頂いているが行き来する機会は少ない。</p>	○	<p>今後、もっと意欲的に市町村と行き来し、連携を深めるよう努めたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在1名の必要な方には地域福祉権利擁護事業を活用し、支援している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内研修で学んだり、チームカンファで話し合う機会を持ち、虐待の防止に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書類に添って説明を行い理解・納得を図っている。その中でご利用者、ご家族の希望・疑問についてもしっかり受け止めるよう気をつけている。退所時は管理者・職員で検討を重ね、またご家族にも十分な説明を行い一緒に検討し同意を得ている。退所先の支援もしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月/1回介護サービス相談員の訪問やCS委員会実施のアンケートを通じてご利用者の意見などを表せる機会を設け運営に反映している。また日常生活の中でのご利用者の言葉や態度から思いを察するよう努め、職員間で共有し支援するよう心がけている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当職員からご家族には折に触れ暮らしぶり、健康状態等報告をしている。金銭管理は出納帳で明示し面会時に確認していただいている。また、月/1回発行の『かたくり通信』で必要事項の連絡・職員の人事等伝えている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族参画型のホームを目指し、いつでもご意見を頂けるよう心がけている。ご意見箱の設置、苦情等の窓口も明示し、CSアンケートにより意見・不満・苦情を無記名で伺う機会も設け頂いた意見は運営に反映するよう努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チームカンファを月/1回は設け各職員の意見・提案を出せるようにしており、管理者と検討している。年/1回職員向けのアンケートを実施し、そこでも意見・要望が出せる機会を設けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	シフト上無理が無い様に配慮しながら可能な範囲で勤務調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動ではグループホームに適した職員配置に配慮して行っている。次担当への申し送りは密に行うと共にチーム全体で連携を持ちダメージを防ぐよう努めている。	

城西医療財団かたくりの郷・らいちょうユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者研修(基礎・専門課程)をはじめ、職員の経験・力量に応じた法人外の研修の受講を奨励し援助している。また法人内でも学術委員会を中心に定期的に認知症ケアなどの研修会を開催し、ふだんの実践・経験に直結した学習の機会を設定しており、働きながらトレーニングできる環境づくりに努力している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者や職員が率先して地域のグループホームとの交流に取り組んでおり、相互訪問の機会を持ち、日常的に情報交換を行なっている。地域全体で高齢者ケアに取り組む視点から、高齢者ケアに関わる多種施設との連携を重視しネットワークづくりに積極的に参加している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>必要に応じてできるだけリアルタイムに管理者や職員と個別面談を行い、施設の理念と個々の課題をつき合わせながら努力目標を共有することで、職員の孤立化やストレスの解消を図っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年度ごとに、前年度の自己評価をふまえた職員個々の努力目標を明記させ、それぞれの課題認識を把握・共有している。給与体系にも成果主義的な業績評価を取り入れ、自己評価・上長評価を重ねて総合的な評価に努めている。また、評価結果が各自の向上心に繋がるよう個人面接の中で意見の交流ができるよう配慮している。</p>	
<p>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談やGH見学に来て頂く機会を設け、ご本人自身とお話し受け止めるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談やGH見学に来て頂く機会を設け、ご家族の希望、思いをうかがい受け止めるよう努めている。</p>	

城西医療財団かたくりの郷・らいちょうユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、必要と思われるサービスにはGHに留めず、併設施設等協力し合い他サービス利用も含めた対応をしている。また緊急性がある場合ですぐにGH入居が出来ない時は併設施設と連携を取っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にご本人も含めた見学をして頂くようにしている。また可能な方には日頃から遊びに来て頂き、入居者と共に昼作り等して馴染んで頂けるようしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念にも「ご利用者とスタッフが喜び、悲しみを共有できるグループホームを目指す。」とあげ努めている。共に生活しながらその中で教えて頂いたり、支え合い関係性を深めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランを通してご家族の意向を伺いながら共に支援して頂けるよう働きかけている。また家族会、行事でも家族参画を目指して一緒に運営に協力していただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の情報収集の時点からご本人とご家族との関係の理解に努め、より良い関係性を築いていけるように支援している。支援の中で関係性を築き直せた事例もある。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くに来られた時に寄って頂くよう声かけしたり、会いに伺う機会をなるべく作るようにしているが、まだまだ努力が必要。	○	行事を始め、日常でも馴染みの方に気軽に立ち寄って頂けるよう努めたい。今後もっとご本人の行きたい場所(自宅、なじみの場所)への訪問を行いたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士の相性等に配慮したユニット構成を考えたりスタッフがさりげなく仲介し円滑な関係が築けるよう努めている。その場合、ご利用者同士の関わりを大切に介入し過ぎないように注意している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後も連絡を取り合ったり、面会に伺いこれまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を伺うよう心がけている、もしくは日々の関わりの中でご本人の思いをくみ取るよう努めている。	○	もっとご本人本位の生活支援に繋げるよう努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の検討資料の中に項目を設け、サマリーからも把握に努めている。入所後も個人年表を作成し生活歴や生活環境の把握に努めている。	○	個人年表等を活用し、さらにその方のバックグラウンドを理解できるよう努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の支援の中で個々の様子を申し送りや職員間の連絡ノートを活用し共有し合い、その時の状態に合わせた支援が出来るよう努めている。またアセスメントを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成においてサービス担当者会議を実施。参加出来ないご家族には事前に意向を伺っている。ご本人にも意向確認が可能な方には伺うようにしており、確認が難しい方にはご本人の思いを汲み取るように努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行っている。またご利用者の状態変化に合わせ必要時には新たな介護計画を作成している。作成時には必ずご本人、ご家族に確認して頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者の介護記録に記入し、気づきや変化については毎日の申し送りや職員の連絡ノートで情報を共有し実践や計画作成の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	なるべくご本人の意向に添えるようご家族と連絡を密にとり、ご家族の対応が困難な場合、個別で受診・外出などの対応サービスを実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	学校や幼稚園との交流活動。防災では消防署、地域消防団、隣接の福祉施設との防災訓練・防災研修を実施している。	○	個人的支援としての地域資源の活用に結びつけていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	まめった講座(介護予防教室)に参加されているかたがいる。	○	今後もっと他のサービス利用の検討や他のケアマネジャー、事業所との連携に努める。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターと協働し必要時には情報交換を行っている。権利擁護も実施している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に希望の医療機関を確認している。歯科医等、専門医も希望医療機関に受診支援を行っている。		

城西医療財団かたくりの郷・らいちょうユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが意識を持ちご利用者の誇りやプライバシーを損ねる事の無いよう心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の状態や理解出来る力に合わせて、説明を行い自分で決めて頂いたり納得して頂けるよう支援に努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく心がけているが、時としてやむを得ずホーム全体の流れに合わせて頂く事がある。	○ 一層、一人ひとりのペースを大切に希望に添った支援が出来るように努めたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その方の好みを大切に希望ではお化粧品や毛染め等の支援を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に一緒に楽しみながら食事作りや片付けを行っている。家事参加の難しい方にはメニュー会議でメニューを立てて頂いたり、その都度食べたい物を伺っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的に晩酌をして頂いたり、買い物に出かけて好きな物を買って頂いたりしている。	

城西医療財団かたくりの郷・らいちょうユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	見守りが必要な方にはご本人の負担にならないように配慮しながら見守り、さりげない支援に心がけて失敗を減らすよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯ではどうしてもホームの都合に合わせて頂いているが、ご本人の気持ちを大切に無理強いをしないようにしている。ゆっくり入浴できるように一人浴で対応しているが希望があれば気の合う利用者同士で入浴を楽しんで頂いている。又、天然の温泉を引湯しており喜んで頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせて支援し安眠、休息に努めている。和室も活用している。湯たんぽ・アンカの対応も必要な方に行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意な事を活かし行って頂くことで充実感を持って頂けるよう努めている。楽しみでも併設施設でのクラブ(書道・手芸・生花)への参加等を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員が管理し、ご本人の希望時に買い物をして	○	可能な方にはもっとご自分で使う機会を提供する。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望時にでの支援はなかなか難しいが、可能時になるべく希望に添えるようその方の出掛けたい場所への外出を実施している。	○	今後もっと希望に添えるよう努めたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	かたくりの会(家族会)で動物園、公園等出かけ喜んで頂けてる。昨年にご家族、ご利用者、職員での温泉一泊旅行を実施。又ご利用者の希望で海やラーメンツアーも実施した。		

城西医療財団かたくりの郷・らいちょうユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話、手紙の支援を実施している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に時間の規制は設けず気軽に面会、ホーム訪問していただけるようにしている。面会場所もご希望の場所で過ごして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設との協働で「行動制限審査委員会」に所属し身体拘束ゼロに努めている。現在身体拘束なし。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関に施錠。弊害の理解は出来ている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご本人の気持ちに配慮しながら所在確認、様子の把握し安全に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりに合わせた対応に心がけ、危険な物は保管に配慮するがむやみに片付ける事のないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアル作成し確認し合い事故防止に取り組んでいる。発生時にはヒヤリハットや事故報告書を記載しその人に合わせた対応、予防策を検討し職員間の共有認識に努めている。事故発生時はご家族に説明、報告を行っている。		

城西医療財団かたくりの郷・らいちょうユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	心肺蘇生法の研修を年／1回実施し全員受講している。事故発生時に備えマニュアルを作成し職員全員で対応の周知を図っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設、消防署、地域消防団と合同避難訓練を実施。夜間想定訓練も実施。又ホーム独自の訓練も行っている。運営推進委員会を通じて地域と施設の災害時における相互協力応援体制の確立を働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランの説明時、面会の折などにご本人の現状・リスクについて説明し対応策を話し合うようにしている。安易にリスク回避の為にその方の生活を抑制しないよう心掛けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを毎日実施し体調変化や異変の発見に努め、気づいた時は速やかに医師に報告、受診を実施。職員間でも情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの処方薬の説明書を読み、医師からの説明も職員間で情報共有(受診記録・職員連絡ノート活用)している。症状の変化時には必ず医師に相談し指示に従う。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	その方に合わせ豆乳やプルーン等の食事での対応も行っている。排便チェックを行い便秘対策をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	その方に合わせた支援をしている。介助が必要な方にはご本人の気持ちに配慮に心がけている。義歯は最低週1回はポリドント洗浄をし清潔に努めている。		

城西医療財団かたくりの郷・らいちょうユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表でその日の食事摂取量の把握を行っている。一人ひとりの状態に対応している。希望に合わせて個人的にパンや粥対応を行っている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設施設との協働で「感染対策委員会」に所属し対応の取り決めを行い、実施している。インフルエンザの予防接種の支援を全員に行っている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具の衛生に努め、食材も日付等に注意し安全で新鮮なものを使用するよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花を植えたり、ベンチ等を置いている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったりしている。季節に合わせたレイアウトで季節感を味わって頂けるようにしている。	○	より生活感を取り入れ居心地のよい空間作りをしていきたい。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にいすやソファを置き、思い思いの場所で過ごして頂いている。		

城西医療財団かたくりの郷・らいちょうユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	ご家族に馴染みの家具等を持ち込んで頂けるよう呼び掛け ている。各居室にはその人らしさを考えた手作りののれんや 表札をかけたたりしている。	○	もっとご本人の生活感が溢れた居室にしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	こまめな換気には配慮している。温度調節も温度計チェック しご利用者の状態に注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	すべり易い和室の上がりかまちには滑り止めのシートを貼る 等、工夫する事で制限を減らし自由に生活して頂けるよう努 めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	一人ひとりに合わせた説明や必要時にはご本人に解りやす いように目安を付けたり工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	庭先にベンチや椅子を置き自由に過ごしたり、そこでお茶や 食事を楽しんだりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

城西医療財団かたくりの郷・らいちょうユニット

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・一人ひとりのADLに合わせた対応に心かけ低下しないよう努め、またその方の気持ちを汲む努力をしている。
- ・担当制にしご利用者、ご家族とのより深い関係作りを図り、きめ細かいサービス提供が出来るように努めている。
- ・家族会（かたくりの会）を月1回開催し、ご家族に参画頂いている。又この会を通してご利用者、家族、職員の関係がより深まったり、ご利用者とご家族の繋がりを深める事に活かされている。
- ・地域交流の大切さを理解し少しずつであるが交流の機会を作るよう努めている。